

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 467

専大スポーツ

編集部公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

X @sensuponow

Instagram sensuponow

リーグ優勝を決めマウンドで喜びを爆発させる部員たち



準硬式野球部

リーグ制覇

15季ぶり22回目

東都大学準硬式野球 最終戦(東洋大3回戦) 秋季リーグ戦11月9日、東京・スリーバードベースボールパーク上柚木ほか

10勝4敗・勝ち点5で2017年秋季以来、15季ぶり22回目のリーグ制覇を果たした。

「あらかじめ準備ができていた」と最少失点で切り返した。打線は1点ビハインド



竹村 最優秀選手賞

で迎えた八回一死二、三塁のチャンスで田中雄揮(経済2・星稜高)の2点適時三塁打で逆転。なおも1死三塁の好機で代打・小坪海里(法4・広陵高)の犠飛で点差を広げ、5-3で勝利し、東都の頂点に立った。

就任1年目の高井祐人監督は「ここまでチームを引っ張ってくれた4年次生の力が大きかった」とうれしさをにじませた。

大学・社会人破り 関東王者

関東地区大学・社会人準硬式野球王座決定戦11月11-13日、東京都・早大東伏見グラウンドほか

関東地区の大学リーグ戦を勝ち上がった5校と社会人3チームが出場し、関東の王者を決めるこの大会。初戦は明大に3-1、続く東京海上日動に7-4で決勝に駒を進めた。

2試合に先発し、社会人相手にも投げ勝った多賀谷は「東都代表として出場し、優勝できてうれしい。支えてくださった皆さんに感謝し、精進していきたい」と謙虚に語った。

進めた。決勝では三井住友海上を1-0で下し、20年ぶり2回目の優勝を飾った。

村上広(経済3・札幌第二高)は「自分たちの守り抜く野球ができた」と関東の頂点に立った喜びをあらわにし、来年度に向けて「全日本大学選手権ベスト8以上の目標をかなえるためにオフシーズンでレベルアップを図る」と更なる飛躍を誓った。

F 61kg級

向田 銅メダル



銅メダルを手に笑顔の向田

レスリングU23世界選手権大会10月20-27日、セルビア・ノビサド

3月のU23全日本選手権で優勝した向田旭登(経営4・花咲徳栄高)が、フリースタイル61kg級で3位となり、銅メダルを手にした。国際大会でのメダル獲得は初。

準決勝で敗れた向田は3位決定戦でアラモフ選手(ウクライナ)と対戦した。得意のタックルから足をつかむと、相手の体を何度も回転させ、10-0でテクニカルスベリオリティー勝ちを収めた。

「入賞できて少し安心したが、優勝しなかったのが悔しい」と向田。「自負も」

分の攻撃的なレスリングが世界に通じることが分かった。得意のタックルから足をつかむと、相手の体を何度も回転させ、10-0でテクニカルスベリオリティー勝ちを収めた。

熊谷 初優勝



泉との専大対決で粘りを見せた熊谷(左)



男子エペ個人戦で熊谷志孔(商2・北陸高)が初優勝を果たした。

関東学生フェンシング選手権大会10月8-11日、世田谷区・駒沢屋内球技場

島崎 学生2冠

63kg級



学生2冠を達成した島崎

全日本大学レスリンググレコローマンレスリング選手権大会=10月18-19日、世田谷区・駒沢総合体育館

島崎は決勝で山田康介選手(関西学院大)と対戦。序盤から積極的な攻撃、相手のパッシングを獲得。グラウンドで3回ひっくり返し、テクニカルスベリオリティー勝ちとなった。「優勝できてホッとしている。自分の理想的な展開で試合を運ぶことができ、気持ちのいい勝ち方ができた」と試合を振り返る。12月の天皇杯全日本選手権に向けて「チャレンジャーとして、一つ一つ積み重ねたい。どの勝負も隙を見せずに勝ちに徹したい」と意気込んだ。

(君嶋II写真も)



専Sation32号 学内で配布中

今大会では勝負強さを発揮した。4回戦では大接戦となった泉怡臣(文2・岩国工高)との専大対決に粘り勝ち。決勝では唐澤颯斗選手(日大)に先手を取られたが、中盤以降は5連続ポイントでリードを奪い、15-13で勝利した。

熊谷は「これまでの試合と変わらず、やれることをやった」と自然体で挑んだことが功を奏した。(竹田一爽・文4II写真も)